

第 27 回（令和 4 年度第 3 回）静岡市ものづくり産業振興審議会 会議録

- 1 日時 令和 5 年 3 月 15 日（水） 午後 2 時～午後 4 時
- 2 場所 ツインメッセ静岡 406・407 会議室
- 3 出席者 **【委員】**
鳥羽委員（会長）、山下委員（副会長）、伊藤委員、井野委員、小澤委員、上妻委員、杉山委員、鈴木委員、牧野委員、松岡委員、望月委員、弓桁委員
【事務局】
稲葉経済局長
大村経済局次長兼商工部長
産業振興課：石川課長、浅野課長補佐兼中小企業支援係長、水野工業振興係長、石川プラモデル振興係長、山田立地環境整備係長、五十嵐企業立地係長、天野主任主事、新村主任主事、石川会計年度任用職員
産業政策課：水島地場産業担当課長兼地場産業係長、頭師主査
- 4 傍聴者 なし
- 5 議題 パブリックコメントの実施結果
及び第 4 次静岡市ものづくり産業振興基本計画 素案について
- 6 会議内容
 - 開会（産業振興課石川課長）
 - ・委員全員が出席しており、静岡市ものづくり産業振興条例施行規則の規定に基づき、本日の審議会が成立していることを報告。
 - ・本審議会を公開とすること及び議事録も公開とすることを確認し、各委員が了承。
 - 経済局長あいさつ
本日は、前回 12 月の審議会において承認いただいた本計画の素案について令和 5 年 1 月から 2 月にかけてパブリックコメントを実施し、市民の皆様から多くの意見をいただいた。これを踏まえたご意見をいただきたい。
 - 素案内容説明（産業振興課水野工業振興係長）
 - ・資料 1～4 を用いパブリックコメントの実施結果について説明。

● 意見交換 ※各委員の意見は、次のとおり

(鳥羽委員)

- ・本日は2つの観点からご意見をいただきたい。
- ・1点目は、パブリックコメントの実施結果を踏まえ、新たに反映させた方が良いと考える点。
- ・2点目は、計画の目標や成果指標の達成に向けて今後どのような観点で進めていくべきと考える点。

(牧野委員)

- ・パブリックコメントへの対応状況については異論なし。計画案についても賛成。
- ・資料3の7「産業別計画の策定について」について、資料1からもわかるように、計画はものづくり産業に対する現状や課題をよく踏まえており、また、体系的に作られていることから、現状は計画を着実に実行していく段階にあると考えている。
- ・注意点はやはりPDCAサイクルをきちんと回していくことであると考えている。指標は4つあるが、多面的に現状を捉えて柔軟な対応を行っていくことが必要である。
- ・また、定量的な面だけではなく、定性的な面についてもよく情報を集めていくことが重要と考える。

(望月委員)

- ・基本計画案もきちんと整理されており、パブリックコメントへの対応についても問題はないと考える。
- ・短期的に社会が変化していく昨今においては、想定していないことがこれからも起こると考えられるので、そうした時に、計画の見直しができる体制をきちんと整えておくことが必要である。

(弓桁委員)

- ・パブリックコメントの結果について、回答者のうち「ものづくり産業に従事していない」人の割合が多かったことが興味深い。駿河区と清水区の割合が多いことも、静岡市という土地柄を表していると考えられる。ものづくり産業に従事していない人に対しても、ものづくりに対する興味関心を醸成できていると推察され、この結果については好意的に捉えている。
- ・計画の内容について、市内のみならず、県内や県外にも発信していく必要があると考える。普段の仕事で産学連携支援をしているが、静岡の産業は首都圏のベンチャー企業等からとても興味を持たれていると感じている。
特にものづくり系のベンチャー企業に関しては、研究開発能力は高いものの、場所や資金がない、という例が多い。市内の製造事業者が場所を提供したり、市が事業展開をバックアップして創業しやすい土地柄にしたりするなどといった対応策が考えられるとともに、計画の内容を発信していくことで、市内にも様々な情報が入ってくることを期待される。

(松岡委員)

- ・計画案について、「経営力づくり」の項目があることが評価できる。企業が廃業すると、地域におけるものづくり産業の総量が減ってってしまう。この総量を増やしていくためには企業を増やしていかななくてはならないが、若い人材が「起業をしたい」と考えたときに支援できる体制を整えていこうという内容が含まれていることが良いと感じた。
- ・企業を誘致するだけでなく、域内で起業したい人材を育成できる体制を強化していくことが必要で、

市がこの部分を政策として考えてくれていることが評価できる。商工会議所や経営者団体と連携し、事業を育てていけるまちになってほしい。

(鈴木委員)

- ・パブリックコメントの結果について、多くの人が回答をしてくれ、ものづくり産業に対する関心の高さを感じた。
- ・パブリックコメントという形式に限らず、この計画について定期的に市民に聞く機会を設けることで、市民のみなさんがこの計画に対してどう思っているのかであったり、ものづくり産業に対する課題意識であったりを、捉えていくことができると考える。
- ・長い計画期間の中には変化もたくさんあると思うが、柔軟に対応してほしい。

(上妻委員)

- ・先日、東日本大震災から12年経った。一方で、南海トラフ地震の危険性が叫ばれており、その地域は非常に多くの産業が立地する場所であることから、もし発生した場合には、日本において大きな打撃だと考える。
- ・最近様々な方々と話をする中で興味深かったのが、他地域の同業他社に、災害発生時に生産を委託できるような態勢を整えておく、また、その体制構築を支援する制度を整えておくことが重要だ、という意見があった。
- ・計画期間において災害が発生するかどうかはわからないが、不測の事態の発生を想定した準備を事業者の中で進めていくことが必要だと感じている。

(井野委員)

- ・パブリックコメントについては、「子供たちにもものづくりの体験を提供してほしい」「子供たちにもものづくりの楽しさを教えてほしい」といった意見があり、「ま・あ・る」で取り組んでいる事業によって貢献していきたい。
- ・子供と触れ合っていると、8年という計画期間は長いように見えてあつという間で、子供は大人になってしまうため、関係機関がスピード感をもって事業に取り組んでいく必要があると考えている。
- ・このような基本計画があるということをより多くの市民に知ってもらうことが必要だと考える。

(山下委員)

- ・パブリックコメントの実施結果については、事務局の説明により十分理解した。
- ・最近のニュースでトピックスと感じているのは、静岡大学と浜松医大の再編に関する事。浜松市では産官学連携で取り組んでいる。全国各地において、大学も特色を出していこうとしている中で、静岡市の産官学連携に関しては、まだ取り組む余地が大きいと感じている。
- ・先日、静岡大学防災総合センターの教授の講演において、令和4年の清水区の水害の際に自身でデータを取りに回りまとめた、という話を聞いた。例えばこうしたデータも行政として活用できるのではと思われるが、大学の研究を行政が活用しているという印象は無く、やはり産官学連携に対しては、力を入れていく必要があると考える。

(伊藤委員)

- ・パブリックコメントの実施結果については、事務局の説明により十分理解した。
- ・計画の成果指標の達成という点において、行動経済学など、人の心理に注目して取り組んでいくとよいと考える。
- ・先日、「ミナトホビーフェス」においてアンケート調査を行った。67%の方が「満足」「やや満足」と回答、81%の方が「プラモデルに、より興味を持った」と回答した。「ミナトホビーフェス」はプラモデル産業の普及や振興のみならず、静岡市のものづくりの将来を担う人材の育成に寄与していると感じた。
- ・今回のようなアンケート調査を実施することで、事業が市民の行動の変化にどれほど寄与したかを見ることができるため、今後も活用していくとよいと考える。

(小澤委員)

- ・パブリックコメントの実施結果については、これからの重要なキーワードが十分盛り込まれていると感じるため、新たに計画に盛り込む必要があると考える事項は無い。
- ・商工会議所で「中期行動計画」を定めている。直近の計画は2020年からの3か年計画であったが、開始してすぐに新型コロナウイルス感染症がまん延し、数値目標が実態と全く合わない、という事態となった。今後、ものづくり産業を取り巻く環境の変化に合わせ、時には大胆に計画の内容を変更していく必要があると考える。
- ・パブリックコメントの結果を見ると、「ヒトづくり」に関する意見が多く、日頃事業者支援を行っている立場としても同じ考えである。最近ある製造事業者を訪問したところ、「オープンファクトリー」に関する取組を開始した、と聞いた。従来、ものづくり産業に対する支援というと、販売促進や新商品開発に対する補助金が多かったが、これらに加え、若年層のものづくり産業に対する関心を高める取り組みとして、製造現場の魅力や現状を発信する取組が重要になってくると考える。

(杉山委員)

- ・パブリックコメントの実施結果について、ものづくり産業に従事していない方がものづくり産業に興味を持っていただいていることに驚いた。そのうち、静岡市で作られたものを「活用・購入したい」と考える方が9割いることをうれしく感じる。一方で、事業者側の情報発信も不足していると改めて感じるため、自身の仕事上でもより情報発信に努めていきたいと考える。
- ・今後の計画の運用については、社会情勢をよく捉えながら、事業者の支援を行ってほしい。

(鳥羽会長)

- ・みなさんの意見に共通するキーワードとしては「変化に備えろ」であった。
- ・また、いくつか「ものさし」を用意することの重要性についても述べていただいた。計画どおりに施策が進んでいるか、という点もちろんであるが、施策を行ったことがどのような結果をもたらしているかどうかを図る「ものさし」を持つことも必要と考える。複数の「ものさし」を持ち計画が順調に進んでいるのかを検証して行ってほしい。

※委員の意見に対するコメント

(石川課長)

- ・ 県外のベンチャー、スタートアップについてご意見があった。来年度の新規事業としてスタートアップに対する支援、オープンファクトリーに対する支援を開始する予定。ものづくり産業の振興に対しても有効な事業であると考えため、しっかりと取り組んでいく。
- ・ 当計画の存在を多くの方に知ってもらうことで、本市のものづくり産業の発信に繋がればと考える。

(稲葉経済局長)

- ・ パブリックコメントの実施内容及び計画の内容については、委員の皆様から評価いただいたと認識している。
- ・ 災害対応に関するご意見をいただいたが、BCPという点では計画の中には具体的な事業として掲載されていないが、経営力づくりやDX推進など、施策としては、普段から変化に備える、という観点で計画を推進していきたい。
- ・ 産学官連携という点では、ご意見のとおり十分ではないと考える。今後の課題として取り組んでいきたい。
- ・ 来年度の新規事業については、スタートしたのち、またご意見をいただきたい。

(水野係長)

- ・ PDCAサイクルについて、実施体制を、本編を用いて説明。

(鳥羽会長)

- ・ 「第4次静岡市ものづくり産業振興基本計画案」について、特段の問題はないとのことで、当案を審議会の総意として決定してよいか。
- ・ 全委員了承。

● 答申

鳥羽会長から稲葉経済局長に対して「第4次静岡市ものづくり産業振興基本計画案」を答申。

● 事務局から事務連絡

● 閉会（産業振興課石川課長）